

平成26年度 京都府立大学地域貢献型特別研究 (ACTR) 成果

分類 番号	A35	取組 名称	ニホンジカの食害による貴重な植物群落の被害実態と植生復元方策 に関する研究
研究代表者：生命環境科学研究科		職・氏名： 教授・高原 光	
研究担当者：京都府立大学 (高原 光, 松谷 茂, 平山貴美子)			
外部分担者・協力者 島 純一 (京都府文化環境部環境・エネルギー局自然環境保全課)			
主な連携機関 (所在市町村、機関 (部署) 名)			
京都府文化環境部環境・エネルギー局自然環境保全課, 京丹後市教育委員会			
【研究活動の要約】			
<p>日本の代表的な大型哺乳類であるニホンジカは1980年代から個体数が増加し農林業への被害をもたらす問題となっていた。1990年代には、さらに自然植生へ大きな影響を与えている。京都府下では、丹波山地のほとんどの地域がシカの食害を受け、さらに八丁平湿原や天然記念物の深泥池などの湿原植生も激しい食害を受けている。そこで、本研究では、京都府文化環境部環境・エネルギー局自然環境保全課が京都府レッドデータブック地形・地質・自然生態系編の改訂版を作成するに当たって、過去10数年間のシカによる植生破壊の現状を調査し、その結果をレッドデータブック「地域生態系」の章に反映させることを目的としている。</p>			
【研究活動の成果】			
<p>丹後半島の積雪量の多い地域では、シカの食害は多くないが、丹後半島でも一部のブナ林でシカの食害が始まっていることを確認した。丹波高原では、ほとんどの地域がシカの食害を受け、林床植生が極めて貧弱な状況になっている。低木層を占めていたササ類が一斉開花も関係して、枯死したが、シカの食害によって、その後のササ類の実生更新が全く行われていない。林床植生では、アセビ、テンナンショウ類、バイケイソウ、トリカブト類などの有毒植物が多く、シカが食べないオオバアサガラ、イワヒメワラビが優占する場所が多く認められた。重要な群落では、防鹿ネットの設置が急務である。また、京都府下で重要な草本群落であるニッコウキスゲ群落、カキツバタ群落がシカの食害によって、衰退している。これらの草本群落では、研究者、地元ボランティア、大学などによって防鹿ネットが設置されているが、特に雪解け時に、防鹿ネットの設置が遅れると植物群落に大きなダメージが与えられたため、早春に迅速なネット設置が必要である。</p>			
【研究成果の還元】			
<p>(1) 京都府レッドデータブック地域生態系編の改訂版 (平成26年度出版) に地域生態系に、本研究の成果を反映させて原稿を執筆した。</p> <p>(2) 京丹後市 「図説 京丹後市の自然」 (平成27年度出版) に本研究の成果を反映させて原稿を執筆した。</p>			
【お問い合わせ先】 生命環境科学研究科 森林植生学研究室 教授・氏名 高原 光			
Tel: 075-703-5683		E-mail: takahara@kpu.ac.jp	

参考（イメージ図、活動写真等）



シカの食害を受けたニッコウキスゲの葉（久多演習林 4月中旬）

防鹿ネットをかぶせたカキツバタ-先端部は食害されている（八丁平, 11月）



丹後半島 高龍寺ヶ岳ブナ林
シカによる林床植生の食害が始まっている
（高龍寺ヶ岳ブナ林, 5月下旬）